

強い心を持つこと

五年 平野 滉大

ぼくは「中村俊輔物語」という本を読みました。この本を選んだのは、ぼくが三年生からサッカーをやっていて、この本がサッカー選手の話だからです。

この本は、中村俊輔が主人公です。中村俊輔の子どもころは、おとなしい性格の子どもでした。そして、幼稚園の時にサッカーと初めて出会った時から、イタリャセリエAのレッキーナに入り、その間にあったいろいろな出来事が書いてあります。

ぼくがこの本を読んで、いちばん心に残ったところは、子どもころおとなしかったのに、大人になってフリーキックの時に、「俺が蹴る」と言っていたところです。

ぼくはこの部分を読んで、オリンピックで自分から蹴ると言うのは、心が強くないとで  
きなないのに、言っているからすごい人だなと

思いました。

なぜなら、もしぼくが中村俊輔と同じよう  
な立場だったらと考えると、フリーキックを  
決める自信がないから、

「俺が蹴る」

と言わないと思うからです。

ぼくはこの本から、チームの仲間と助け合  
うことが大切だと学びました。これから心を  
強くして、サッカーをがんばって、中村俊輔  
みたいになサッカー選手になりたいと思います。

アンと私

五年一組 堀木 彩花

わたしは『赤毛のアン』という本を読みま  
した。この本を選んだのは、この本がおばあ  
ちゃんとお母さんが「この本、好きだよ」と  
おすすめしてくれたからです。

この本は赤毛のアンが、主人公の物語です。  
アンはおしやべりで空想が大好きな女の子で  
す。アンはギルバートにかみのもの色の車を  
からかわれた事が元で、二人が同じクラスメ  
イトとして、口も聞かなくなりました。五年間  
もの間絶交状態が続きました。

私がこの本を読んで、一番心に残ったところ  
は、ギルバートがアンのかみの毛を引っぱ  
り、「にんじん、にんじん」と言ったところ  
です。ギルバートは、悪気があって言ったの  
ではなく、悪ふざけで言ったにもかかわらず、  
アンは自分の赤毛が大キライなので、心に傷  
が付きました。私にも、アンと同じような経  
験がありました。私ははたの色で、とてもい

やな言葉を言われてしまっただからです。その時、「いやだな、私は日本人なのに、はだの色が黒いだけで悪口が言われるの？言ってる自分たちもはだの色が黒いのに、自分たちのことは何にも思わないの。」と思いました。私はこの本から、人はそれぞれちかうコンプレックスを持っていらっしゃるんだと思いました。だから、アンの気持ちもよくわかりました。しかも、もう少し早くお互いに許し、歩みよる事が出来ていれば、もっと楽しい学園生活かおくれたよう気がしました。

そして、時には自分の心ない一言から、相手を傷付けてしまう事があるからです。そんな時は素直な気持ちで、心から相手に謝まる思いやりのある人になりたいと思いました。

努力は絶対むくわれる

五年四組 山際 涼太

ぼくは「セロひきのゴロシユ」という本を  
読みました。この本を愛んだ理由は、この本  
が、ぼくの大好きな宮沢賢治みやざわけんじという人が書いた  
本の中でけ。この有名な本だからです。

この本は、町の映画館でセロという楽器を  
ひく係のゴロシユという人が主人公の本です。  
だけどゴロシユは、あんまり上手ではないと  
いう評判でした。しかも上手どころではなく

仲間の泉手いずみのなかではいちばん下手へただった。  
めに、いつも泉長にいじめられていました。  
そんなゴロシユが、十日後のえんそうまで、  
夜おそくまで練習していく話です。

ぼくがこの本を読んで、一番心に残ったこ  
とは、十日間努力して練習していたおかげで、  
十日後のえんそうで、前回よりものすごくう  
まくなったことです。ぼくも同じ経験をした  
ことがあります。ぼくは、水泳をやっていた  
その水泳の、とある大会で、最悪のタイムが

でました。それから、3日ほどしかかかってな  
いけど、練習ををかんはってしてたら、その  
大会から2週間後の大会で、なんと3秒もバ  
ストより速くなっていたのです。  
このことから、短い時間でも努力すればい  
いことが起こるんだなあ、と思いました。み  
んなも、興味をもったり、セロひきのプー  
シュ  
を  
読  
ん  
で  
み  
て  
く  
だ  
さ  
い  
。

かいぞう文庫